



◆仕事への復帰の難しさ

復帰できない理由は、いざという時に周囲に頼れる人がいないこと。夫から、「子どもに関する愚痴だけでも嫌なのに、仕事の愚痴まで聞きたくない」と言われて協力が得られなかったり、「働きたいと思うけど、子どもの急病などで休みが多くなれば、周りに迷惑がかかるなど、いざ考え始めると不安でいっぱいになる」と、本人が復帰に向かう気持ちをセーブするなど、それぞれに苦しい思いがあったといえます。

復帰は、職場も家庭も含め、周りの環境や考え方によって、随分違って来ようのです。



◆正社員のまま働き続けたかった

正社員のままキャリアを積みたかったが、子どもが病気の時に有休を使い切り、やむを得ずパートに変わったという方は、仕事内容などで周りの同僚との差を感じ、それがストレスになり退職されたそうです。

当時の会社の柔軟な対応があれば、そのまま働けたのではないかと、その思いがあるそうです。また、病児保育制度についても、今以上の充実が望ましいとの意見がありました。



ママを支える

Sweet & Sheep の取り組み

スタッフの家族のことも親身に考え、会社はみんなのもの、みんなできなくていいと考える 柏原さん（取締役）の存在が大きいと思えた取材でした。

社 風

女性が家庭を持ってからも安心して仕事が続けられる環境をつくり、“輝きたい”女性を応援する

制 度

産休や育休、時短・フレックスタイムの利用など、状況に応じて働き方が選択できる

協力体制

信頼できる上司・同僚がいて、自分の手に余る仕事や、子どもの急な病気の際も安心して協力を頼める

濡れ落ち葉の独り言 (※)

～男性から見た男女共同参画～

定年退職の日を迎え、待望の“毎日がサンデー”朝寝、昼寝をし放題。毎日家に居て「飯!」「お茶!」などと注文を付ける私に、ついに出た妻の一言。「濡れ落ち葉生活を早く卒業してヨ!」。

無趣味な私でもできることが有るだろうかと探し、一般教養、趣味、レクリエーション、ボランティア等々、幅広く学べる2年間の長期講座、シルバーカレッジ16期生に早速申し込みをしました。運営は受講生が主で行い、皆で協力し合って行動する、アクティブなシニアの集まりです。



仲間に背中を押され、きずなを深めながら過ぎた2年間は、あっという間でした。講座やクラス活動などで個性を発揮しあい、卒業後にはOB会を結成しました。月例講座、ボランティア、各サークル活動や、地元行事の桜井凧上げ、矢作川下りなどにも積極的に参加するようになりました。

定年直後の私は「燃え尽き症候群」「濡れ落ち葉」「粗大ごみ」「亭主元気で留守がいい」、そんな言葉が聞こえてくると、自分が男性差別の真ただ中にいるように感じていました。

現在はシティマラソンや七夕まつりなどのイベントボランティアにも、OB会で参加しています。

「濡れ落ち葉」が家を出て、社会で今何が出来るのか。その第一歩が踏み出せたのは、互いに相手を尊重し、思いやることのできるシルバーカレッジの仲間たちのおかげです。

肩書も年齢差も無関係。性別にもこだわらず、対等な立場で話し合い、何事にも積極的に参加することが、男女共同参画の基本なのだろうと感じました。



あきかいの会に参加し、男女共同参画の勉強を始めた今、定年後のシニアライフが、より有意義なものになりました。

あの時の濡れ落ち葉生活は「夢の中の出来事」だったのかもしれない。そんな思いで、今を大切に、張りあいのある毎日を元気に生きています。(幸)

※濡れ落ち葉＝仕事も趣味も仲間もなく、妻に頼りきって離れようとしないう定年退職後の男性。濡れた落ち葉が地面に貼り付いて取れないさまに例えられる。